

### 横浜国立大学 多和田先生ゼミ による史料調査・実施中です

令和7年7月30日から8月1日まで横浜国立大学の多和田雅保教授とゼミの学生が、町内個人蔵史料の調査と小布施町の巡見のため来館されました。この期間は猛暑日の連続日数を更新するほどの暑さでしたが、多和田先生指導のもと、古文書の撮影を中心に学生たちが調査をしました。休憩時間など時折暑さのため疲れを見せる学生もいましたが、そこは若い大学・大学院生たち、調査が再開されると様子が切り替わりもくもくと作業をこなしていました。また昼食に出掛けながら、小布施町の施設や文化財も見学、文書館に楽しそうな表情をして戻ってきた学生を見ると、こちらも楽しい気分になりました。学生にとってこの小布施町での出来事が一生の思い出になれば、これもまたうれしい限りです。

ゼミの史料調査は、令和7年10月18・19日にも行われ、また今年21・22日にも引き続き実施されます。多和田先生には、これから小布施町の古文書を含めた文化財のため、お力をお貸しいただけたらと思います。また、いつも多和田先生の調査に協力をしてくださっている小布施史料調査会の小山洋史さんにも改めて感謝を申し上げます。



#### 「専門員雑記」

皆さんは古文書・古記録と聞くとどういうものを思い浮かべますか。多くの方は江戸時代以前のものと思っているのではないのでしょうか。しかし日本国語大辞典第二版編集委員会編集『日本国語大辞典』第二版第五卷(小学館、2001年5月)によると、古文書は「古い文書。古証文。」、古記録は「特定の相手なしに書かれたものを記録とよび、比較的古い時代の史料となる記録を古記録という。特に日記をさして用いることが多い。」と説明されています。つまり江戸時代以前とは定義されておらず、例えば太平洋戦争中の手紙や日記も古文書や古記録と言って間違いではないのです(しかし実際は近代史料とか近・現代史料と言われることが多い)。

さて令和7年8月にNHKで「新・ドキュメント太平洋戦争」という番組が放送されていました。この番組は太平洋戦争を個人の手紙や日記・手記などから見ていくという手法で作られ、それらは当時言論統制が厳しい中、人々の本音が語られたものとして、番組では注目していました。つまり昭和の民間の史料も貴重な宝物であることを指摘していたのです。そこで明治・大正・昭和時代の史料も家宝として大事に保管していただきたいと思います。しかしもし、土蔵を壊す、家を建て替える、引っ越しで空き家になるなど史料の保管に困った時は、文書館にご一報を。小布施町の宝物として活用していきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願ひします。



■ 家の土蔵を壊す予定があるなど、古文書等の保管に関するご相談は、文書館までお願いします。

小布施町  
文書館

開館時間 午前9時～午後5時 休館日 毎週日・月曜日、祝日、年末年始  
長野県上高井郡小布施町大字小布施 1491-2(小布施町役場3階)  
Tel. 026-214-9114 e-mail : archives@town.obuse.nagano.jp